

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：グループホームはなんばの里

施設種類：グループホーム・小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日 時：令和6年5月28日 14時～15時40分

会場：グループホームはなんばの里

出席者
(人数)

利用者代表	0人	有識者	0人
利用者家族	1人	高齢者あんしん支援センター職員	0人
地域住民の代表	2人	出雲市職員	1人
その他（施設長）			1人
デイサービスセンターやまもも 家族1名 職員1名 ※（デイサービスセンターやまもも運営推進会議との合同会議のため）			

(議題)

1. 利用者状況報告
2. 活動状況報告
3. 今後の行事予定について
4. 令和5年度事業報告について
5. 外部評価結果報告と目標達成計画について
6. 身体拘束等適正化について

(報告・説明事項) ※グループホームはなんばの里に関するもの

利用者の状況報告	・現入所者数、申込者数、入退所状況、入所者状況、(性別、介護度、年齢) ※前回運営推進会議以降入退所なし
活動状況報告	・4月～5月に実施した主な行事・活動の報告 〔お花見会、おやつ作り、誕生会、買い物、お好み焼きパーティ〕
今後の行事予定について	・かたら団子作り(6月)、・クリーンデイ参加(6月)・窓ふきボランティア(7月)
令和5年度事業報告について	・令和5年度グループホームはなんばの里事業報告の概要について説明
利用料の変更について	・令和6年6月分からの利用料(介護職員等処遇改善加算)の変更について
外部評価結果報告と目標達成計画について	・令和5年度自己評価・外部評価の概要及び出雲市へ提出した目標達成計画について
身体拘束等適正化委員会の設置について	・身体拘束等の状況報告(身体拘束等廃止委員会(詰所会議)からの報告)

●議題 1～4（利用者状況・活動状況・今後の行事予定・事業報告）

（会議の内容…評価、要望、意見、助言等）

○ 地域住民の代表より

今年度から行事をユニットごとに行っておられますが、職員の手が足りていますか。大変ではないですか。

⇒ 施設より

今年度より個別性を大切に活動を描画し実施しているところす。いわゆる3密にならないのであれば、ご家族の皆様にも参加していただいています。コロナも昨年度5類に移行し、徐々に活動の幅を拡げていっています。活動内容によっては手が足りないということもありますが、事前に計画書を提出してもらいどれくらいの人数が要るのか把握し、足りない時には管理者や看護師などユニットに入り、職員間で協力しながら行っています。

○ 出雲市より

誕生会の方法を変えてみてご利用者に何か変化はありましたか。

⇒ 施設より

ご利用者は幾分も経たないうちに行ったことを忘れてしまう方が殆どです。事の積み重ねで心豊かに過ごせたりされるとは思います。コロナ禍もあったためか、利用者ご本人よりもご家族の方が喜ばれている様子が窺えます。快くお願いを引き受けてくださったり、待ち遠しく感じて頂いたりとそのような姿を拝見するとこちらもやってよかったと実感できます。5月15日より面会も15分間拡大し30分となりました。居室で面会していただくだけでなく、天候の良いときには施設周辺を一緒に散歩していただいています。

○ 地域住民の代表より

ご利用者がすぐ忘れてしまうのは仕方ないことだと思いますが、面会に来られることで利用者のメンタル面に何か影響はありますか。

⇒ 施設より

性格的なものもありますが、頻回に面会に来られる方については比較的安定して過ごされているように思います。面会が遠のいてしまうと不安な気持ちが強まるようで、職員や他の利用者が密に関わっても孤独感が増していく方もいらっしゃいます。こちらから面会をお願いをしたこともありました。

○ 地域住民の代表より

面会の回数に制限はありますか。

⇒ 施設より

特に制限は設けていません。日に2回でも構いません。週に3～4回面会されるご家族もいらっしゃいます。行事や入浴などでタイミングが合わない時もありますので面会時には予約していただくことが必要です。

○ 地域住民の代表より

事業報告で毎年転倒や転落事故が多く発生していることが分かりました。そういった事故を防ぐためになにか工夫されていることはありますか。

⇒ 施設より

歩行が安定しない方や自身だけではできないことでも認知症の影響で過信して車いすなどに一人で移乗される方が殆どです。そのような方にはベッドの足元にセンサーを使用し未然に事故防止していますが、前年度はセンサーの受信機を職員が携帯せずに他の業務を行っていたり、送信機や受信機のスイッチがオフになっていたりと人的ミスが多かったように思います。センサーだけに頼らず頻回に巡視等行っていますが、数分で事故に至ってしまうことがあります。今後も事故をゼロにすることは難しいことですが、ヒヤリハットの分析を活かし少しでも事故を未然に防ぐことが出来るよう取り組んでいきたいと思います。

○ 施設より

はなんばの里は変わらず待機者が非常に少ない状態です。実質上、入所をされそうな方は1名です。外部評価委員の方からも市内でもグループホームの待機者は減少していると伺いましたが、現在もそのような状況は変わりませんか。また、ホームページに待機者数を挙げておられると思いますが、それを見て入所を希望される方はおられますか。

⇒ 出雲市より

市内でも待機者数は少なくなっています。シニアコートなどサ高住に入所される方は多く、それを受けてグループホームへの入所待機者が少なくなっているのではないかと思います。

●議題 5（外部評価結果報告と目標達成計画）

外部評価の概要報告及び目標達成計画について

①『外部評価で確認されたこの事業所の優れている点、工夫点』（評価機関記入全文）

日本海に面した静かな場所にあり、施設前の広い駐車場は地域行事に活用され交流も盛んだったが、コロナ禍で中止が続いていた。昨年より段々と復活し、関わりを持てたことに喜びの声が多く聞かれた。一昨年の秋、利用者と職員双方からコロナ感染者が出たが、専門家の指導を受け乗り切っている。コロナ化を機に利用者の入れ替わりもあったようだが、ホールからは歌声や職員と談笑する声がよく聞こえており、イスの体操で体を動かしたり、手作業も盛んに行われている。母体の法人には多くのサービスがあり重度化への対応も可能だが、ここでの看取りを希望する声が多く、以前から看取りを行っており今後も続ける意向を持っている。管理者からは待機者の減少に不安の声が聞かれ、ケアの充実への焦りも感じられたが、時間をかけて段々という動きが変化してきていることが実感できた。今後も幅広い研修に取り組むことで職員個々がレベルアップし、よりよいケアを目指していただきたい。

②『次のステップとして期待されたい内容』として評価・記載された内容（外部評価全20項目中1項目）

番号	項目	取り組みを期待したい内容
9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	より充実した個別対応ができるよう検討していただきたい。

出雲市へ提出した目標達成計画

優先 順位	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	利用者本人の思いや希望など職員個々では把握に努めているが、チーム全体を通しての共通認識は薄い。ご利用者一人ひとりのニーズを理解し支援するためにチーム力を高める必要がある。	利用者の行動や表情、状態などの観察能力を高め、日々変化する利用者に対するアセスメント能力を身につける。記録を詳細に書き記し、その情報を共有・理解し、チームでの連携、チーム力を高める。	①日々の関わりの中で得た情報は生活記録に詳細記録する。②職員は担当する利用者に密に関わり多くの情報を得られるようにする。③アセスメントシートには本人の思いについて項目ごとに一つは記入する。④ユニット会議にてチームでなされていないこと、不十分なことについて再検討し、確実なケアの実施に繋げる。⑤リーダーとその他の職員の横のつながりを大切にし、困ったときにはちょこっとカンファを開き解決できるようにする。	12ヶ月
2	入所してもなお、ご家族と共に利用者本人を支えていかなければならないが、ご家族との情報共有が不十分である。また、ご家族の意向がケアプランに反映していないこともあり、施設側の一方的なケアになっているところもある。	利用者本人とご家族の絆を大切にし、ご家族も利用者が生活していくうえでの心の支えとなり、ご家族と共に本人を支えるケアを目指す。	①計画作成担当者はもちろん、ご家族の具体的な意向が聞けるように、本人の状態や思いをモニタリング月を目安にご家族等に詳細に伝える。②ご家族がより面会に来やすい雰囲気を作るため、面会時、電話、広報誌等で担当職員及びユニット職員は日頃の様子をしっかり伝える。③ご家族に協力していただくことはケアプランにて示し説明する。	12ヶ月

○ 地域住民の代表より

個別対応が出来るように取り組まれているのですね。行事や活動の在り方が変わったのも外部評価を受けてのことですか。

⇒ 施設より

それもあります。職員がこうしたいということを形にして実践しています。コロナの影響でできなかったことも少しずつ出来るようになり、以前からやりたかったこと感じていたことなど職員自ら積極的にこなしている最中です。頼もしく感じています。

●議題 6（身体拘束等適正化委員会）

○ 施設より身体拘束廃止委員会（詰所会議）の報告

- ・身体拘束廃止委員会（詰所会議）から別紙のとおり身体的拘束等の状況報告を行った。報告に対する質問・意見・要望等はなし。

別紙

身体的拘束等の状況報告

■身体拘束の状況：緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。

■教育・研修等の開催：令和5年9月13日以降行っていない。今年度は9月と3月に行う予定

■日常的ケアに対する取り組みと見直し：毎月、各ユニットで高齢者虐待、不適切なケアについて話し合いの場を持ち、翌月の月目標として挙げ取り組んでいる。また、詰所会議にて各ユニットで挙げた

日常的ケアに対する見直しを基に日々のケアを全職員で振り返り、適切なケアへと繋げていくようにしている。

◎実際に起こったことではないが、事例をもとに話し合った。

（事例）

自分で歩けるご利用者に転倒させないようにと車椅子で移動した。

◎何故そうしたのか？

- ・転倒されると困るから
- ・車いすで移動した方が早いから

◎私ならこうする！

- ・転倒しないように傍について歩く
- ・シルバーカーや歩行器を使用して安全に歩ける方法で歩く

◎実際に行いたいこと

- ・歩行できる力があるのに歩かせないことはその方の身体機能を奪ってしまう。いずれ歩けなくなる時は訪れるかもしれないが、それを職員が速めてしまう。自分で行きたいところに行けなくなり、その方の選択の幅がかなり狭まってしまうことで、間接的に身体拘束や虐待に繋がる事例である。
- その日の状態（体調）にもよるが、歩けそうなときは本人の意向を確認しながら、手引き歩行や側方介助、シルバーカーなど安全に歩けるものを使用し、出来るだけ現在の機能を維持し本人の自立支援に繋げていくように配慮する必要がある。

○ 地域住民の代表より

本当にそのような介助が必要とされますね。車椅子で移動する方が職員さんにとっては早くていいと思われることでも、ご利用者のためにはなりませんね。ご利用者の残された機能をしっかり使ってもらいその方に合った介護をしてもらいたいと思います。

⇒ 施設より

このユニットではインターネットから事例を引き出し、適切なケアを行うための話し合いを持っています。一見、不適切なケアではないのではないかと感じるようなことでもゆくゆくは本人の自由を奪うことになりかねない事例だと思います。ご利用者の中には歩ける機能があっても車椅子での移動を希望される方もおられますが、言葉をしっかり選んで本人が安心してやる気になれるような声掛けを心がけています。

○ 地域住民の代表より

徘徊される方はおられますか。また、徘徊されて転倒されるなどの危険がある方もおられると思いますが、拘束することもできない中どう対応されていますか。

⇒ 施設より

徘徊される方は皆さん歩行が不安定な方ばかりです。また、車椅子に乗ったままで徘徊される方もいらっしゃいます。車椅子のブレーキをかけずに降りようとされることもあり、車椅子だから安全というわけではありません。常に職員が付き添って一緒に歩いていますが、時間帯によっては人手が足りないこともあります。一人が落ち着かれないとそれが波及し現場の職員だけでは対応できないこともあります。穏やかに過ごせるような環境を整える努力はしていますが、なかなか難しく感じているところです。

○ 地域住民の代表より

職員の離職率はどうですか。

⇒ **施設より**

現在のところ、はなんばの里ややまももでは辞める職員は多くはありませんが、介護職員自体が定年を迎えるとその分職員が不足してしまうといったことはどの事業所でもあります。近隣の施設でも介護人材不足を解消するために外国人雇用を始めておられますが、多伎の郷でも来年度を目途に外国人の雇用を考えています。

(その他)

○ 次回開催予定日 デイサービスセンター やまもも 7月24日(水)